

18禁



おいでよ！

ナザリックのふたなり牧場

生猫亭



戦はずアインズ様と
女ですがあの愚かな
ユーロニスト
に渡しておきました。

わ吸ち尿ほ
よつゅ道一から
うち一から
んやちら
♥うゆも
う

頭ぱし脳や
ぱいゆみん
にわなしよこれ以上
になりゆう

つほーら脳みそちゅう
かうねう♪
つて吸つてあげまちゅ

あの反抗的
な女がどう
變えられる
かの実験

ほーら
お尻の
からも
チンポからも
一いちゅーいちゅー
わよん

しょうが
ない
らい

あへええぎもちうう
いえぎもちうう
えぎもちうう
ぎもちうう
ちうう

笑顔でピ一スれば
してねーん♥

ほう：

可改記知い結果は能變じ果てることとして脳を性癖度まで判明しました。

おほら虫けら好きな
門前よ♪

ええ好い匂うええ
心

命たをナ面仕舐ケ自
う令と主！議事めツ分
うことへののる穴の
なり忠ろ思ラるのをこと
り実どいルるスが
まに込従よませ
たつせな

あさ好ふふそん
されげるビスして

ごああ
才主事
ナラ～

挿奥ほ上な虫
きん入まら手かに
でもいなし
舌つわかては
さま

ふふ嬉
嬉しいの？
そんなんに

舐づつ
肛門ひ
美味い
で舐め
わーんたい

でつた復の吸よ二問い合わせ
解いた活たいいるユ題え
決てそすめ取脳！が実
しものるる回る改口あは
て別問の復次造ニリそ
おの題でさ損はスしれ
り方点すせ扱脳トてには
ま法に。るいをに

ひにだよ時なるはは精神ほど
はよさ操作り人形にする
と負なりはがたよさそ
でかかニユロニースト
では時間がかかるし
か

性と移上他で性だしさ
ま欲こ植がのす欲つたき
しがらしる牡のがためほ
た。以全てのもので特のスジ
。上で試か同男別で元実
なのしを様性旺す々駆け
は牡でべに器盛がフで使
のみ二性がでたス欲あるが
タナリをがるた。と

にだ生意とレ頂ア
成見け殖思こづいイ
り合の器のろりたん
下つ知を強一カアズ
がた能扱い部をイ様
り動のく牡の与テか
ま物低さ
ました。

判射回がをのさ
明精復即併協ら
し可し満用力に
ま能いタヌでル
普なと回復ス
たこと。とで精魔
液法ギナ

いチ
うぐ
う
い
い
う
心

なアあデと
んレツミウロ
のルル
ゴス様
すか？

始共のあ
ま同た
あるオメア
とナにレ
面ホ作は
白でつ今
いすた回
家の実
ですよ精
用験
が

ふふ
ふ
ふ
かみする
なら
で楽実
どふ
かみする
なら

射チもほ
精ンつらほ
る抜遠慮
ついてなく
すよ♪

チチ
ンン
ポボ
おおお
♥

あに金す回な金
げし玉一復魔法で
てパグで空
パン

つざつほ
すWメ
らウツキ
跳なば
すら

パサザ真あ
なす！んあ
ないがメ中なる
つデンからほ
すミがら噴噴
♪ウ噴噴ど
ル出水射
ゴすみ精
スんたする
様すいる
ねにと

猿さ腰も猿をまいき
にせをつみ覚るいや
なて力とたえでは
る本ク無いたオスは
つ物力様つてナよ
すのクにすの二
よ

でとさす様気殺以いすし
しする々をさ外ビ
がてあ予なつなはル
：使た定実けい回ア
用つで駿なよ復イと
して蟲みのた苗の床
でいう女

高しの冒次
目V扱にアダ
でがい者チダ
で他マントム
人が彼青タ
女達は薔薇級

デニウルゴスさん
ここではな
何をしてるんで

よ変人性苗で
うわ間能床も
だらとはと残
ねな特普し念
：いに通てな
のながら

しか栄と普利苗モラガの彼マイ
てど養比通用床ンし高な女
いうが較のしとスいいか達レ質
るか高し人たしタのほでは人
ん實いて間場て一でうは人
間だ験よ

「やはそ以イふ
Vつどの外ビむ
ががうイとル：
高ダしひいアそ
かんたルつイア
つツのアた
たツダイか
ろう？」

「そ
れ
は
残
念
で
す
か
？」

必どとまとを交次は特を
要うのずは確配はあに使
がか交人思か実モリ大用は
あを配間つめ驗ンまきし普
り確がとてでスせなた道
まか可モいい違タん違場の
すめ能ンまこい！でい合
るかスすう
タが

「もに今さ結でと変な
付度て果もわわ
おきは彼だ十から
う合別女よ分つ
かつの達：なた
だけ
なて実に
験は

ザ
品
母
乳
の
よ
う
だ
の
は

でよと好殺とのつい
しろ貸さすり希いビ
よしに以あてるではア
うか与し外えかつては
アエントマ
たしたいのトマ
ですが

糞糞あおを排そしかめ目こ
袋をげ腹あ泄こてらにの
人永てにけ物の上お合牝
形久まおては穴げ返わに
です返直おにましさは
ます接臍出しにれ痛
われさせましに穴たわ袋し
ゝにた
ゝ続ける

くくそこの私
くそな：ウノコが
これが止まらない
を外せ！

どあ尿オど面そ
うげ道マう白れ
でたにンでいは
でもらもなやら入
れて
ありんすか？

で様シさ
すグヤす
わツルが
♥ドテ
アイ
アイデア

そななし晴ああ
あかるなならいあ
れかろうしつ：しつ
され殺たもなるほど
どうなつた？
どうにでも

がまあそ
れは今ど
うい
うか？

こ見吸
こいり学
血の鬼
世界の伝
たか
説的な
がすす
ががたこ
のりんす
か？

ゴ前シシ
ミでヤヤ
れではル
ルはテテ
わだイイ
アアは
様様の

注そ
入れれ
じやれ
あ





次に以前ナザリックに侵入したワーカーどもですが魔法で手足を切り離し改肉バイブ件才ナホにナ改造しました。それからナザリックのおもちゃとして使えるかどうかの耐久テストを施しました。

許やひ
しめつ
てて！
！：

元の姿に
戻して：

返家して

（捉えたワーカー）ああ、ミーナとアール・シエとかいう女共か

よく以氣ま隨盜お
すく外持あ分人や
よなはちす勝のお
るどいぐつくや
とういにてせ
思でこ
いもと
でに
ね

その耐久性では
トと

まあ痛みではなく
感謝げるんできて
嬉しいから
ですかね

ふつむ
まなて
だしも
う射で
や精も
キ間





ふたなり化して
モンタニ化して
タケノコは入る
豚はモリ化して
タケノコは入る
タケノコは入る

の牝交あ増交よはよや主モナ
ですが配まえ配う自るシにンザ
すなしりるにな然召ヤアスリ
：せよおもよもボ喚ルイタッ
かうりのつのツ：テン！ケ
少にまはてばブまイズはの
なもせ かすたア様
い ん りる に
… で

次に実験の本命とも
ついでる異種交配に
ついて報告させて
頂きます：

実なを使人で
験い自つ間の
をか然ての毛牝で
行ど増ンを
いまかやセタ
した。

いとのどぞそ
るな優れのれ
のつ先く実で
だて順ら験
？位いは

お取事実まる子モ高ナは
りり項驗すこ孫ンレザイ
ま組とののとがスベリ：
すんし最でに作タルツ成
：でて優なれ一の功のす
先 れば

おど姫今残みと様リオゴ
りう姫の念た交々ザフ
まやしとのわな！ガ
せらたこがでらモド
牝ろらすセンマ
ンは がてスン
タ

あざい子あ
ふれいメン
ふれりゅう

おにでで「のみでも可のこも
りもす姫ト「知まもの能生のじ
ますし姫ト「識し性は性殖世か
ますの「する」によると思せとつ異人ら
ゆよ部「コ」はケツ
えうのモラシのモソシい穴
の御方
がタ

あむつあへ
オマジナシ
オマジナシ
オマジナシ

し前おおほ
ゆ立ほつ
ごいこしゅ
れて

おおおー突き
押し出され
る♥

だぞ超難子だ無なも
つれそ位し作と理くし
たは魔いりいだてかそ
な残かでかご俺：初な
：念か：のがあかくても
可：そまやで
能な邊だつも、
かどろ？

いがで試を強あをに姫やは
うゆすしひくるすは姫はい
もえがてと全いる子さり：
の挑困いつてはか宮せ異
でみ難くひの根近のる種
すがなしとモ気親改た問
種造めで
い目かな
ががない
あるあか
と



アホが渴むれルガ
といやあたちでし
でたつやありんす
ロ

そアホが渴むれルガ
といやあたちでし
でたつやありんす
ロ

舐一ハ全私床そま
め滴いてののあ
取まヒ飲とオ代い
りで「みおシわい
な綺ル干前ツリり
さ麗にしのコ
いにつな分
いさ
たい

メどうかしら
スカシラ
美のスカシラ
オシッコ

でな牠のシで美
すに犬オヤス
ワよにシルフシ
ンリとツテンイ
のつコイ♪
ごてはア様
駆走

ごま嬉うアも
めしシレルリ
もうし
ヨシシ
ンしき
せん
わ
け
ち
て
は
い
わ
ん

でかそでいオお
あかれあいシや
りつにりとツ誰
んて私ん許コが
するのす可しお
足かして前
に?た
に

うぐう!
あも、も
うし
ゆ、
つこ
せん
急に
飲ん
いで
主
人
様

せお小まかてと綺と号メは
て口便ざら汚メ麗オは入い
頂便ぜつ出しスナマゴ犬わ
き器えたチ犬オソ主アか
までえミオンのシコ人ルリ
す吸えツシボッコ
いんクツとくコラのエし
取ぶスコマ



次状はカルネ村の
現状につついて：

ゴブリンさん！
助けて

カエル村で工場を運営する村長が、魔族の魔笛娘を連れてきた。魔笛娘たちは、魔族の魔力によって変身した魔物たちを操り、工場での効率化に貢献している。

魔笛娘たちは、魔族の魔力によって変身した魔物たちを操り、工場での効率化に貢献している。









もに彼牧素マ
のはの場晴一と
が目独がらレのう
を創完成いア
あり見張るアイデ
りますねアタ

とは同るものお
思う時んチ互え
つがにだんい
た早繫かボにた
ただいげらもマ
だけ つん いコ
です て

し が し
ア マ イ レ 素 晴 ら し い
ア イ デ ア だ ね :

すアをこと
ばイ連のく
らデ結肛に
シアす門
いがる

はい僕で
アでさう
なうん
なんの
でもし
ます…

君と
ころで
まいひ
協力し
てね?

出結は排のチまる
ある局要泄とんある
もい検物腹ポでのつ討のにがも
だかで回た抜以しはす収まけ外
：か方つやと
わねたす

たいえ
を撒き散らされる
うんコを
がと後の大変ですし：





のがか量奴に経以
牝あるな産隸は過上
がりり体の成での
妊か進は畜しの制家功異よ
うな種交
おりませんが
姫なり
しまし
ました。

なし肥植直でつ排
りて料物接つい泄
まおとや第なて物
せりし畠六いはに
ん無ての層でホ
°駄利 の一
に用

お絞乳ゴ
厩ア牝妊
り搾舍ウに娠
ます任やン繫のいた
。せザ達い作て
て一で
メン

おも入作完のみこアごあ
持うれつ壁さすのイギリ
ちしまてな待やテンいが
をばすご家待アミズまと
しの薙畜にイウ様まつ
でにを添ンル
えズゴ
る様ス

ぞ素晴
らしい
ゴス！

期家為ナ
げ待の完
り畜しの
完全なク
お成なる
るを

結けい
いろい
果的
にはは
引い
おお？

す理のさし用牝妊
る想妊えあ
での娠成じ
し家が功じ
よ畜可し
うが能て子
宮の改
造ば

数カ月後…



次回があるかどうかわかりませんが
次は守護者を中心とした話を描きたい
と思います。

それでは今回はこの辺で失礼いたします。
ご覧頂きありがとうございました。

奥付：



小説：
本文：happy holic 香坂カヤコ
挿絵：chan shin han

どうもchan shin hanです。
今回、生猫亭の「オーバーロード本」
をお手にとって頂きありがとうございます。

はつきりいって小説を読んでない人にとって
登場人物がさっぱりな本ができあがりました。
もう少し守護者を中心に使うつもりだった
んですが牧場部分をたくさん書きたかった
のがあったので守護者の出番がめちゃくちゃ
減ることになってしまいました。

マーレとアウラの絡みとかもっと描いてし
シャルティアのアルシェ調教は6pくらいは
かいてたんですが(ラフですが)尺がありま
せんでした。エンリの話も圧縮したし
アルベドさんがモモンの大好きホールドで
脱糞するとか描いてたんですが丸々
カットですよ…アルベドとかまったく手がまわ
らなかつたので友人の香坂さんの書いてくれた
次のページから始まる小説が小説がアルベドの
話で助かりました。(香坂さんありがとう)

—ロスト—

で包み込んで扱っている。

陰茎を優しく擦り、鈴口に指先をつぶりと入れる。

「だめ、もう……っ」

ふるりと肩を震わす。

「あ、と艶かしい吐息が一つ漏れる。
アルベドは、AINZの寝室で愛しいものの姿がプリントされた抱き枕とともにベッドの上で腰をくねさせていた。

定期連絡でナーベラル・ガンマからAINZの様子はわかるとはい、ずっと姿を見れずには寂しい。その寂しさを紛らわすために、また愛しい御方が戻った時に自分を存分に感じてもらいたいと、AINZがエ・ランテルに情報収集のために行つてしまつてからは、ここで毎日数時間過ごすのが日課となつている。

「ああ、AINZ様……」

切なく名前を呟き、アルベドは股間にある形の変わつたものを、枕に押し付ける。

纏うものはベッドカバーのみ。その中で荒い息を吐きながら、AINZ抱き枕を抱きしめ腰を押し付ける。柔らかくスベスベとしたそれはアルベドの手作りで、彼女のものを心地よく刺激する。

「AINZ様、そんなにしては……」

彼女の妄想の中では、AINZは愛の言葉を囁きながら、アルベドのペニスを骨ばつた——というより骨そのものの手

令を下す。

彼女にとつてAINZは唯一無二の存在で、絶対君主である。そんな主君の命に従うのは家臣として当然のこと。

「あう……恥ずかしい私の姿を……どうか……どうかご覧下さい！」

アルベドは己のペニスの角度をやんわりと調節すると、あへええ、とだらしない声と共に抱き枕に向かつて射精する。

びゅるつ！ びゅるるるるるつつつ——

最初に大きく射精した後、小刻みに震えながら何度もビュルビュルと枕に打ち付ける。

「申し訳ございません……何卒お許しください。すぐに綺麗にいたします」

命令とはいえ臣下が主を汚してしまつたのだから、すぐさま謝罪をし自分が吐き出したものに舌を這わせる。頬を紅潮させ、どろりと白く濁つた液を舐め取ることに夢中で、扉がノックされたことには気づかなかつた。



名を告げて入ってきたデミウルゴスに名を呼ばれ、初めてその存在を視界に留める。

何をしているかと尋ねる彼に、悪びれることもなくアルベドは答えた。

無論「オナニーよ」なんて情緒の無い答え方はしない。主君が戻ってきた時に自分の香りで包んで差し上げたいと、それは美しい表現で。

いずれここでAINZと初めてを迎える日が来ると信じている。その時のいわば練習みたいなものだ。

アルベド以外にもシャルティア以下多数の女性がいるこのナザリック大墳墓で、自分が一番に召されなければならない。そして何度も寵愛を受けいざれ跡継ぎを授かる。

正妃。なんて甘美な響きなのかしら――

アルベドはうつとりとする。

「だらしない顔をしているところ悪いですが、失礼しますよ」

ベッドカバーをデミウルゴスに剥ぎ取られ、アルベドは我

に返った。

「何をするの」

「これはまたわかりきつたことを」

デミウルゴスはアルベドに覆いかぶさる。

「一人で慰めて満足する貴女ではないでしょ？ 欲求は適度に満たしておかなければ任務に支障を来たすかもしだせませ

んからね。お相手しましよう。まあ、こちらの穴はAINZ様のために純潔を保たれていいでしょ？」

「そうは言いながらも、デミウルゴスは冷静だつた。アルベドのような美女とこのような行為に及ぶことができるのであれば、人間ならば興奮して鼻息荒く彼女を組み敷くのが当然というものの」

しかし悪魔であるからか、彼の態度は事務的で、性的興奮を微塵にも感じさせなかつた。

「では」と一言断りをいれて、デミウルゴスはアルベドの後ろの穴の方に指を突き立てる。それと同時に果てて萎びているペニスにも手を添えると、へにやりと彼女の腰にある黒い翼が降伏を示すかのように垂れた。

「待つて。この体はAINZ様の――」

「ええ、私も貴女の味方ですよ。だからオマンコには一切触れません」

デミウルゴスは優雅に微笑む。そして。

「んううつ……」

ズブズブと押し広げられるように指をアナルに挿入され、アルベドは声を上げる。ここに受け此の感覚は初めてではないような気がした。

無論、AINZからは戯れでもこのようなことをされた記憶はない。まだ胸を揉みしだかれるまでだつた。

愛してやまない主君のために操を立ててきたはずなのに、一体何故と快樂を与えられながらぼんやりと考えるが答えが出ようはずもなく、だんだんそれに流されていってしまう。

そもそも彼に触れられて戸惑いはあつたものの不快ではなかつたのだから、この行為に適応してしまうのも早かつた。

「貴女は目を閉じてAINZ様のことを考えていればいいですよ」

「あつ……ああつ」

全く息を乱すことなく、普段の動作とあまり変わりのないような振る舞いのデミウルゴスとは対照に、アルベドの息はだんだん荒くなる。

指なんかよりも、もつと——という欲求が湧き上がり、ぞくりと粟立つ。

これではまるでビッチではないか、とアルベドは否定するように首を振った。

だが、もともとの彼女の設定がそうなのだから拒めるはずがない。

AINZがユグドラシルのサービス最終日、最後の最後でアルベドの設定を見て戯れにその部分を変更した。それに伴いビッチ設定と紐づけられた行為はアルベドの記憶からなくなつていた。

アルベドは、ビッチであつた時も至高の御方に操を立てて

睦での行為はしていなかつたが、そのかわりアナルの方では随分と遊んだものだつた。特にデミウルゴスを相手には数え切れないほどに快樂のみを貪る行為を繰り返してきた。至高の御方を待つ間寂しさを紛らわせるため、余りある時間に捨てられたと思わされるようで、そう思いたくなくて何度も何度も。

「では、入れますね」

「ひつ！ あぐう！ ああああつ！」

一言断りと入れてから、アルベドの中にデミウルゴスの凶悪なものが入つてくる。

硬さ、太さとともに人間のレベルで考えれば規格外のそれが埋め込まれていく。

痛みは無く、強烈な圧迫感もすぐに快樂へと変わる。

ただ、同僚に浅ましい姿を晒したくはないという羞恥心のようなものもあり、お互い四つん這いで彼と重なりながらもベッドシーツを握り締めながら唇を噛む。

「それはAINZ様との時の練習ですか？ 確かに、サキュバスの本能のまま動くよりもそうやって恥じ入りながら御方に身を預けている方が可愛げがあるかもしれませんね」

なるほど、と一人勝手に納得しているようで、頷きながらデミウルゴスは後ろから更にアルベドを貫く。二人の汗などの体液がシーツに染みを描いていく。

「ふつ、うつ！」

直腸を穿つ感覚に気を遣りそうになるのを堪えながらアルベドは唇を結んでいる。

ペニスを咥え込む場所がより一層の湿り気を帯びた音を立てて、デミウルゴスの高まりを教える。アルベドの腸液だけでなく、デミウルゴスのものからの滴りも混ざり合ってきているからだ。

アルベドは、ぐいと下腹に力を入れデミウルゴスのものを締め付ける。

この行為自体に不思議と嫌悪はなかつたが、AINZを想いながらこのままここで彼にイカされるのも憚られる気がした。

どの道この宴は雄が果てるまで終わらないのだから、先に出させて終わらせてしまおうという魂胆だ。

「ああ、貴女も限界が近いのですね。どんどん快楽を貪ると良いですよ」

「え？ あ、ちょっと……ひやうん！」

放置されていたペニスを握られ、アルベドから情けない声が出た。

「待って、やめ！ あひつ！ あああんっ！」

それまでもある程度硬さと角度を持つてはいたが、的確な場所を彼に刺激され、アルベドのペニスは最高潮に腫れ上が

る。

「ニュチュツ！ にちやにちやつ！ くちゅつ——」
亀頭から涎のように蜜が垂れ、くるくると円を描くように手のひらで執拗に撫で回される。陰茎をスナップを効かせてリズミカルに扱かれれば、それを追うようにアルベドの腰も動く。自分のものもパンパンに膨れ上がっているが、彼のものもまた同じように膨れていく。

「んおつ！ んはつ！」

圧倒的な質量を中で感じながらアルベドは獣じみた声を上げる。

「ほら、貴女はここをこうされるのもお好きでしたね」

デミウルゴスは、彼女のたわわな胸をミニムニイと揉みしだき、既にコリコリの勃起している乳首を摘み、指を摺り合わせるように扱く。

「いひい！」

アルベドは、弱いところを同時に攻められ、視界に星がチカチカと光が散るような感覚に眩暈がする。出口を求めて彷徨い渦巻いていた欲望は、ようやくそれを見つけたかのように、一気に加速する。

腸内を蹂躪する高速ピストンにあわせ、彼女も腰をグイグイと押しつけ動かしながら最後の時を待つ。

「AINZ様の寝台を汚すわけにはいきませんからね、中に



出すのでどうぞ受け止めて下さい」

最後まで情熱的な態度を取ることもなく、落ち着き払つたままでそう告げると、ねつとりと粘度の高い精を腸壁に叩きつけるように吐き出した。

「あ、らめ！ らめなの！ イク！ イツちやう！ んおおおおおおおつつつ♥」

一方アルベドも、彼の言葉は耳には届いていたが、反応することはなかつた。久々の性交の余韻を楽しんでいるかのように、しまりのないだらしない顔をしながら、愛しい御方の抱き枕を虚ろに見つめていた。

いつかここにAINZに召されて、その時を迎えるのを夢見ながら――

びゅーつ――
びゅるるつつ!! びゅるびゅるびゅるるるつ！ びゅ、
びゅーつ――

対してアルベドは痴態を晒しながら、腸内に射精された刺激がトリガーとなり、絶頂する。AINZ抱き枕の顔の部分に思う存分欲望の証をぶちました。AINZ本人ではないとはいえ、至高の御方を模つたものに射精するのは背徳的で罪悪感を多少なりとも感じていたが、体だけは満足感を得ていた。

「それでは、失礼します」

DEMIULGOSSは瞬く間に身支度を済ませ、既に扉に手をかけていた。言葉に抑揚はなく、乱れている風でもない。表情もいつも平静な時のままで、今までアルベドとそのような行為はしていたのは嘘のようだつた。

for adult only

2015.12.31

namanecotei